



『二律背反の世界』

管長 菊池 重敏



神道大教の教典である、四大信条の「地恩」の項に二律背反という言葉が有ります。これは、同じ条件の中でも矛盾して両立しない事を意味しています。

この世の総ての物は、陰陽の神である、高御産靈神（たかみむすひのかみ）と神産靈神（かみむすひのかみ）

から生まれたものですので、自ずと自然界には、陰と陽の現象が起きて来ます。

これは、プラスとマイナスで有り、男と女で有り、強弱で有り、善悪で有ります。地上に於ける相対有限の世界は、一面には、反目、対立、葛藤、闘争と成って、弱肉強食の生存競争が行われて行きます。

これは、陰陽の神から生まれ出たものですので、必然の事で有ると説いています。生存競争と共存共栄は、矛盾背反するように思われますが、自ずから調和が有つて、動物と植物は均等に存

在しています。

私達の心の中にも、悪い心と良い心が同居しています。なるべく良い心を持つとうと努力するのですが、中々思うようにコントロール出来無いのが私達です。

人間には、良い心と悪い心の両方を持っていますから仕方が無いと諦めるしか有りません。

心の中でいくら悪い事を思っても、それを言動に現わさなければその人は良い人なのです。

人間には、理性と本能が有つて、動物の本能が強くなつて来ると理性が働いて、待て待てそれをしては皆に迷惑を掛ける事に成つてしまふとか、警察に捕まってしまうとか考えて、本能をセーブしているのです。

正月号
編集・発行
東京都港区西麻布
4丁目9番2号
宗教法人「神道大教」 本局
神道の友編集部
TEL 03-3407-0524 番

明治天皇御製

わがくには神のすゑなり神まつる
昔のてぶりわするなよゆめ
ちはやふる神にむかひてはぢざらむ
こころのそこのくもらざりせば

陰陽の神から生まれた我々は、善悪の気持ちを持つ事は当たり前前で、悪い事では無いのです。

ですから、自分は悪い事ばかり考えてしまうので、駄目な人間だと自己嫌悪に陥る必要は無いのです。

只、言葉と行動に悪い事を出さなければ良いのです。

江戸時代の都都逸に「割つて見せたや私の心、割れば色気と欲ばかり」と言うのが有りますが、何故か納得してしまします。

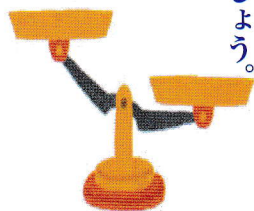
二律背反が有るからこそ、地球上は進歩向上して人類社会が発展して行くのです。暗いから明るい事が良く思えるし、悪い事が有るから良い事が際立つのです。二律背反する現象がこの世を造り出しているのです。

人間がどれを選ぶか、良い悪いを客観的に判断して、自ら取る道を決めて行く。そこに繁栄か没落かが生まれて来るのです。

言葉と行動に気を付ける事が、神が我々に与えた心の修業なのです。

本能は馬力、理性はブレーキと考え、ブレーキを掛け過ぎると自分らしさが無くなってしまう。馬力九割、ブレーキ一割位が自分らしく生きて行くのに丁度良いのではないのでしょうか。

繁栄の道を自分らしく、伸び伸び生き生きと、生きて行きましょう。



令和二年度 秋季例大祭斎行

秋季例大祭の前日、晴天に恵まれ祭員及び東京婦人会のメンバー総勢十七名が午前十時弥栄殿二階和室に集合。管長挨拶の後、夫々が祭準備に取り掛かりました。例年の如く、手慣れた手さばきで神殿内の壁代や門張の取付、各所に張られたしめ縄や紙垂の取替、大麻・神籬・御幣・玉串の製作、奉納幟の飾付、祓所の準備等、内外の装いが整い、愈々神饌の盛付で有ります。伝供で供物が落ちない様に、表裏から見ても美しい様に、真剣に盛付を行います。祭具等を整え、午後四時より儀式の習礼が行われました。霊殿祭・本殿祭と式次第に則り、本番さながら緊張感の漂う中、習礼が終わったのは午後六時過ぎです。夕



上奏詞祓、修祭殿霊

食を共に食べ、更に準備に余念が有りません。

大祭当日、吹く風も心地よく、秋晴れに恵まれ爽やかな朝を迎えました。

七時の朝食を済ませ、最終準備に取り掛かります。午前九時、第一鼓の合図と共に霊殿祭の着装に取り掛かります。手水を行い、祭員が整列し、第二鼓が打たれ、典儀の号令にて、伶人を先導に斎主・祭員祓所へ参進し修祓を行い、第三鼓の合図と共に、参拝者の待つ御霊殿へ参進。長元禮典長の開式の辞に始まり、斎主一拜、献饌の儀、幣帛供進の儀、斎主祝詞奏上、橋村美樹先生の慰霊の舞が、御霊

参拝者・奉納者芳名録

(敬称略)

幣帛料御奉納者

- 【北海道】 札幌八幡宮 菊池重敏 嶋影憲三 村木牧子 函館敬神大教会 工藤隆三 工藤賀子 工藤超千 工藤一美 高穂神社 三浦満雄 中林鉄夫 中林絹子 原田貴史 澤木和子 飯島玲子 宇波和子
- 【青森県】 石神社 小野光廣 小野節子 節田志ノ武 佐々木ヒデ 郡川洋子 横濱栄子 小笠原達雄
- 【山形県】 清光院小教会 湯上弘通 多田悦子 山川信利 出雲太神社 菊地元宏 菊地康倫 三山宮 宮田博正 宮田榮
- 【宮城県】 桂田安子 桂田啓生 桂田雅子 桂田悟 あかつき仙台分教会 堀川秀夫
- 【福島県】 永山和洋
- 【栃木県】 出雲大神像観中教会 柴山清 歳徳神社 板倉進 板倉百合子 板倉聖子 板倉信之助 高藤神社 坪山欣也 坪山仁美 坪山雅則 鈴木一男 福富信男

飯塚まゆみ

- 【茨城県】 大熊満
- 【埼玉県】 木曾御嶽川越大教会 山崎真理 伊藤み代 天神大教会 富田信太郎 富田茂雄 深田神社 深田佳聖 和田直樹 西山昌男 渡辺かず子 木下博子 吉村秀子 佐藤幸雄 栗原一弘 鈴木明子 東由加雄 建沼道夫 雅楽天神会
- 【千葉県】 大和八幡神社 橋村美樹 橋村敬子 天明道心小教会 宮崎日出男 宮崎初枝 宮崎貞幸 吉川カヅヨ 小粥健司 石川昌幸 稲葉静子 菅野一男 鈴木裕基子 田代玲子 辻村豊春 飯田栄子 宇田川三恵 沖田毅 沖田基次 金澤啓光 神田恵司 古宮茂雄 櫻井嘉津子 田代恵美子 東千鶴子 三浦和子 宮地由美子 山田道子 山元真二 山元達好 板垣仁一朗 坂井はるひ 今村滋 白川貴朗 前川征男 前川和範 白井光一 白井正人 石川進 伊藤由香
- 【東京都】 石大神宮・飯井宮再興祭祀天興大教会 小林宗朝 小林昌代 小林晴

- 比古 栄珠稻荷神社 永井栄子 森田瑞穂 井上象英 白鬚神社 品川幸子 良和神社 宮内康 福谷比砂 寺田悠甫 大塚和彦 馬場いさ 平野多可子 島田栄造 斎京則子 日向敦子 弓場祥子 藤野咲那 柴田麻佑子 松橋由佳 北山雅康 葵拡夢 米山玲子 高橋邦夫 大関清美 鈴木晴美 濱名弘子
- 【神奈川県】 不二中教会 齋藤和幸 八坂青山御祈禱所 井上直幸 井上八城 井上壽子 八坂宣教所 成井勇吉 成井朝江 成井康雄 高草木恒雄 高草木鎮代 坂本八千代 山神宮 勝亦健一 松野昭男 島田好子 宮崎紗枝 鈴木啓司 池田美恵子 額綱司 太田神社 岡部道泰
- 【山梨県】 吉田仁六
- 【静岡県】 駒岳大教会 赤堀峻雄 荒浪仁一郎
- 【長野県】 三井雅之 寺嶋日登美
- 【新潟県】 島田ミネ
- 【愛知県】 玉野御嶽神社 加藤剛之 桃太郎神社 若森國道 若森治彦 若森禮子 八幡天水宮 深谷章男 遠藤貴

をお慰めすべく、穏やかに美しく奉奏され、東京婦人会有志の先生方先導による神教歌を、祭員・参拝者が声高らかに朗々と奉唱され、次いで、齋主玉串奉奠、祥月命日を迎えられる御家族並びに参列者が玉串を奉りて拝礼、撒饌の儀、齋主一拝と、祭儀は肅々と莊嚴に進められ、御霊殿に御奉齋の御霊慰霊の祭りが滞りなく齋行されました。

東京婦人会の皆様によって、御神酒拝戴と甘酒が振る舞われ、参拝者は喉を麗し、昼食のお弁当に舌鼓を鳴らし、美味しく召し上がられました。

一時からは本殿祭が齋行されました。先ず、祓所にて、修祓が行われ、黒袍・赤袍・緑袍・斎服・桂と、色も鮮やかに華麗に身を包んだ齋主・祭員が参進し、御本殿に着座致しました。

和田直樹典儀の開式の辞に始まり、齋主一拝、開扉の儀、献饌の儀と祭儀は進み、平安朝の絵巻さながら雅や

かに伝供の儀が厳かに行われ、一糸乱れる事なく、御神前へ神饌が供えられました。

副齋主により、奉幣の儀が行われ、振幣の儀では、一層雅びを加えられました。

続いて幣帛供進の儀、菊池管長の朗々とした祝詞が奏上され、感謝の詞を天明道心教会長宮崎日出男先生が感極まって奉読され、一同胸を熱く共に感動に包まれました。

次に、副齋主先導にて、大祓詞・四大信條を祭員・参列者が心一つに力強く奉唱されました。

雅楽天神会の奏でる雅楽の調べに合わせ、林日奈子局員による、浦安の舞が優雅に美しく奉奏されました。

次に、齋主玉串奉奠、祭員が座後列拝し、続いて一般参列者が、次々と玉串を奉りて拝礼をされました。

次に、撒饌の儀、齋主一拝と続き、管長より三條の教憲が奉読され、一同が応答しました。



一同 祭員 祭 殿 霊



唱奉 歌 教 神 による 会 婦 人 京 東



奏 舞 霊 慰 の 師 樹 美 村 橋

子
【岐阜県】岐阜県教師会 岐阜中教院 奥田紀明 小平孝行 岐阜中教院教師会 眞中神社 若森正仁 若森正道 若森真澄 林日奈子 眞中神社教師会 導徳中教会 古市文江 古市享 小川千代子 金刀比羅神社 杉本富子 小川晴人 林千津
【滋賀県】滋賀米原小教会 吉田善實 平野希久代 山田綾乃 高橋良一 藤野力ズ子 遠藤正範 八軒真澄 藤本晴美 細川源太郎 岡野洋子 堂坂とく 堂坂重男 石渡あき枝
【京都府】堤龍一郎
【奈良県】うづめ大教会 木村剛正 岡本忠宣 國親小教会 早川政弘 大神茅原小教会 坂口光三郎
【兵庫県】森田李雄
【岡山県】池上友章
【高知県】高知中教院 吉良祝人 吉良羊子 吉良典世
【福岡県】扇森稻荷神社 長元祥泰 後藤勇 森茂章 松崎潤也 石山晴子 寺田勢鶴子 寺田将二 永瀬幸子
【大分県】今村文夫 三浦

恒良
【宮崎県】高天神社 金丸タカ子 金丸和充 加藤和代 藤本陽子 馬崎玲子 江藤京子 島村昭子 藤森一正 山本一馬 興侶秀子 牧野はるみ
【鹿児島県】高田頼子 高田宮子 黒田茂實
御供物御奉納者
札幌八幡宮 菊池重敏 出雲太神社 菊地元宏 天明道心小教会 宮崎日出男 赤木彰子 深田神社 深田佳聖 和田直樹 道徳中教会 古市文江 扇森稻荷神社 長元祥泰 眞中神社 若森正仁 若森真澄 清光院小教会 湯上弘通 地主昇 函館敬神大教会 工藤隆三 黒田一二三 井上象英 堤龍一郎 國井高子 藤本ハル 藤本陽子 石神神社 小野光廣 柴田麻佑子 伊藤由佳 高天原神社 金丸タカ子 村木牧子 東京婦人会
【祭員奉仕者】(敬称略)
齋主・菊池重敏管長 副齋主・長元祥泰禮典長 典儀・和田直樹



手水を終え祭員整列

続いて、国歌斉唱、教歌奉唱の後、祭員の紹介がされ、齋主・祭員が退下されました。再び管長がお出ましになられ、長年に亘って暦の奉納や品々の寄贈を始め、大會議議長の歴任、会計監査員や各種委員会での御活躍、「神道の友」長年の連載等、神道大教発展の為、今日まで御貢献戴いています、井上象英先生に感謝の誠を捧げ、最高職級の「大教正」を贈呈されました。続いて管長より、『四大信條（地恩）』について、「自然界の現象は、二律背反すれども、これが有るから、人類文化は、進歩し向上する」



齋主・副齋主による開扉の儀



齋主・祭員御本殿へ参進

との内容の講話がされました。コロナウイルス禍の終息が見えない中、直会は中止と致しましたが、大勢の教師・生徒が御参拝され、神道大教らしい、福德円満の漂う素晴らしい祭典でございました。



局員 林日奈子の浦安の舞奉奏



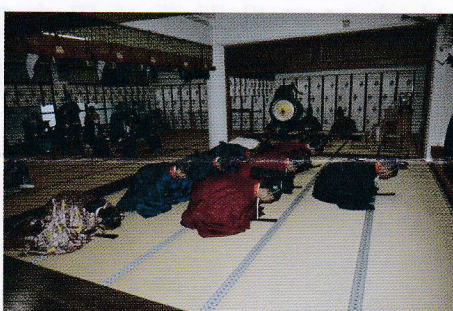
長元禮典長 奉幣の儀



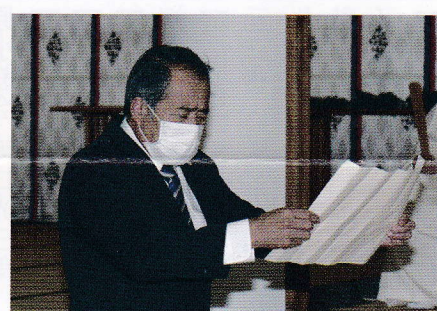
献饌の儀



祭員と共に大祓詞を奉唱する参列者



副齋主以下 大祓詞、四大信條奉唱



天明道心教会長 宮崎日出男先生の感謝の詞

山形県・小野透史 千葉県・伊藤由香 東京都・小林宗朝 増井真粧美 増井花音 金田英仙郎 葵拡夢 原田眞聖 原田みどり 米山玲子 米山浩史 米山瑛人

銅板奉納者芳名
十月二十一日より十二月四日まで御奉納の申込を戴きました方々の御名前を掲載させていただきます。

この度の秋季例大祭齋行に際し、連日準備と奉仕に携われた祭員並びに教師の方々と並びに東京婦人会、青年会各位の多大なる御支援を賜り、滞りなく大祭が齋行出来ました事、厚く御礼申し上げます。

御奉仕に感謝致します
祭員・堤龍一郎、大熊満、菊地康倫、小林宗朝、金田英仙郎、岩上直樹、宮内康、橋村美樹
浦安の舞・林日奈子（本殿祭）、橋村美樹（靈殿祭）
神教歌・森田瑞穂、永井栄子、若森真澄
伶人・雅楽天神会



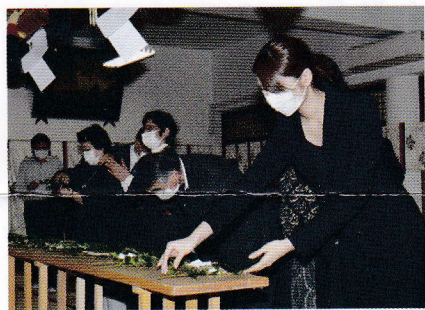
役員の玉串奉奠



伶人の力強い奉奏



大祓詞を奉唱する婦人会



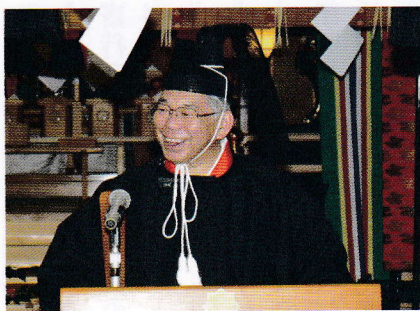
参列者の玉串奉奠



参列者の玉串奉奠



参列者の玉串奉奠



菊池管長の挨拶



井上象英先生へ大教正の贈呈



管長の三條の教憲奉読



本殿祭 祭員一同

皆様方には御支援の御奉賛金を賜りまして、誠に有難く御礼を申し上げます。

申し上げます。

戴いた方々は「奉納奉告祭」にて大神様に御芳名を奉告

百十四名、七百五十枚の御奉納を賜りました。御奉納

晴輝

(敬省略)

賀来剛之 賀来直子 賀来

佳代 相田安範 大分県

神奈川県・岡部道泰 相田

子 北山雅康 柴田麻祐子

米山丈偉 米山樂 平野孝



奉納者の銅板を書く管長



授与所新築工事 骨組み全体

大変ご迷惑をおかけし、心からお詫び申し上げます。
山梨県・吉田仁六 様
岐阜県・梶原敏雄 様

令和二年七月二十一日盛夏
号の掲載にて訂正がございました。

【お詫びと訂正】

又、銅板奉納の御申込は、十二月五日をもちまして締め切らせて戴きました。

新年を迎えて

神道大教 総監・

禮典長 長元 祥泰

令和三年の年頭にあたり、謹んで御皇室の弥栄を寿ぎ奉ると共に、全国教会・神社・教場の御隆昌と、先生方・崇敬者皆様方の御清栄を御祝い申し上げます。

平素より神道大教・神道大教院の神事・諸事には格別の御高配・御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

扱、昨年はウイルスの影響により世界中が大変な年となりました。我が国においても四月に予定されていた秋篠宮文仁親王殿下の「立皇嗣の礼」が十一月へと変更され、「東京オリンピック・パラリンピック」も本年へと延期されました。大教に於いても、「大嘗祭記念事業」として皆様に御浄財を戴きました、本殿大床の改修工事は、当初の予定では二月七日に仮遷座祭、

四月十三日に本遷座祭を行い、二十一日の春季大祭では、皆様に檜の香漂う御本殿にて御参列戴きお披露目をさせて戴きたかったのですが、参列を自粛戴いた上での祭典となりました。

七月の総代会・大会議は議員の皆様方に御理解を戴き、文書での会議を行いました。八月の研修会では、現任者のみで、期間を短縮しての開催となりました。

本局での宿泊が出来ず、参加を見合わせざるを得なかった先生方、また御参加戴いた先生方にも、様々な御不便をお掛け致しました。

しかしながらいづれの祭典・行事、六月の九州教区研修会や九月の松戸研修会に於いても管長先生に御英断戴き、局員を始め諸先生方の献身的な御奉仕・御努力により、大禍無く厳肅に、また着実な成果を上げる事が出来ました。

十月二十一日の秋季大祭では、状況が少し落ち着いた事もあり、従来通りの祭典を行う事が出来ました。また念願であった授与所も

九月一日に地鎮祭を行い、十二月十九日には上棟祭を斎行致しました。四月の大祭までには竣工の予定となっておりま。

十月には「大嘗祭記念事業」の仕上げとなる弥栄殿のトイレの改修と、二階広間を仕切るアコーディオンカーテンも新調する事が出来ました。

改めて大教院の大神様の御神徳にただただ感謝申し上げます次第です。

今年は四月末日をもって菊池管長先生の一期目の任期が満了となります。その後大会議員の選出・総代の任命等と続きます。

昨年の大会議で承認戴いた次世代委員会も発足させ、現在活動が滞っている青年会へと繋げて行きたいと存じます。現在小生は五十五歳。活力ある青年教師と経験ある先輩教師とのパイプ役として何が出来るか熟慮して一歩ずつ前進して参ります。

令和六年には創立百五十年を迎えます。本年度中に準備委員会も発足すべく、準備を進めて参ります。



6月九州教区研修会開催



大嘗祭記念事業にて完成した本殿大床

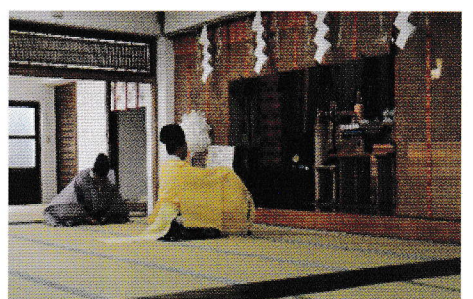
皆様の更なる御理解と御尽力をお願い申し上げます、新年の挨拶と致します。



10月 秋季大祭斎行



研修生一同



8月研修会の開講式

「忘れる事を忘れてはいけない」

日本の暦にある節句には「人日」「上巳」「端午」「七夕」「重陽」の五節句が有り、三月の雛祭りには「上巳の節句」と言って、形代になる雛に我が身の穢れを移し、これを川に流して清める習慣の民俗行事でした。

古来、「禊祓い」には各種の方法が有って、水・火・風・土・そして言霊も有ります。現在は、雛飾りとして、三段・五段・七段と言った飾りの様に姿かたちが変わって来ました。

すべて物事の始めには、決まり事が有りました。

その決まり事が有るのに何故か忘れてしまう。



人間は忘れる動物なので、起源や理由、大事な事すらも忘れてしまうのです。

今回のテーマは、その様に忘れてしまう事を忘れてはいけないと言う事です。大事な事は神事を含めて色々有ります。

平安時代の宮中では、陰陽寮（おんみょうりょう）という部署が有って、日本の律令制において、中務省に属する機関で、占い、天文、地理、時、暦の編纂を担当する役所でした。その頃日本には、暦が無かったので、中国の暦をそのままコピーして使っていました。

しかし、中国とは、緯度も経度も違うので、季節も、潮の満ち引きも違い、時差の有るものをそのまま使うのは不具合が出るので、日本式に修正しようと暦が作られました。その時、ルール改革も有って、日本式の神事も多く加えられ、独特の地方祭事や習慣も作られる様に成りました。

陰陽学や五行思想等には「気学の理論」が有ります。

『気』とは、万物の根本精

気で、天地生成の気で、人の精気でも有り、生命エネルギーとも言われます。

人が誕生した時に持つ生命力が最大エネルギーの源で、陽気の根源です。

気学や方位学には吉凶禍福が有り、それぞれに理由と論理が有り、結構当たっているものです。

そうした大切な教えが気学の理論には有るのです。

どうにもならない事を神に祈り、祈ったが所以にうまくいって叶ったと言う事も有ります。見えないものに對する畏敬の気持ちで、日本人は昔から持っていて、忘れられてはいません。

日本には土着の宗教が有り、惟神（かんながら）と言われていましたが、仏教が輸入され、仏教と区別するために「神道」と言う言葉が出来ました。

忘れると言う事は、どういう事かと言いますと、人間の精神的な浄化作用が働く

事だと思えます。

忘れるという事を肯定したものと否定したものと考え方が有ります。

忘れるという事は、捨てると言う事で、捨てると言う事は、そこから解放されると言う事で、解放されると言う事は、解脱する事になります。

これは仏教的な考え方です。では執着はどうでしょうか。仏教の言葉に有るかどうかは分かりませんが、神道的な考え方に「執着は百害あって一利なし」と言う言葉が有ります。

執着は形に有るものではなく、心に有るもの、見えな

いものに対する執着、それが神道的な解釈です。執着が有ると、そこに気持ち

が引張られてしまい、何をやっても、どうしても元に戻ってしま

う。執着から離れられないでしまう。それでは、何の進歩も無く、何の変化も生まれません。変化が、必ず良い結果を生むかどうかは分かりませんが、自からが変化しようとしなければ、何も変わらない

いのです。

伝統的な事と、大事な事は変えてはいけませんが、自分の人生を豊かに生きていく中で、（死ぬまでの間に）変えなければいけない事は勇気を持って変えて行きましょう。

もしも執着する事が有ったならば良く考え、自分の意志で忘れる事です。そして、次に進む事です。

「忘れると言う事を忘れない」で、大切な礼儀や修練事は受け継いで行きましよう。忘れるべきものは、忘れるように心掛け、禊をするが如くに心を更新して行く必要も有ります。

神道の昔の言い方「惟神」の意味は、神様のように生きて行く事です。

神道の大切な考え方、教えです。忘れてはいけない大事な事です。

論語指導士

大教正 井上象英

（講演から）



神道大教本局

名誉管長

木村 剛正

管長

菊池 重敏

総監

長元 祥泰

責任役員一同

大会議議員一同

神道大教院
総代一同

うづめ大教会

教会長

木村 剛正

副教会長

木村 孝子

〒六三〇一八三三七
奈良市中筋町二四一
TEL〇七四二二二二四一九
FAX〇七四二二二二四一九

新年の御慶び

申し上げます

令和三年元旦

神道大教札幌八幡宮



宮司 菊池 重敏

〒〇六〇一〇二六八

北海道北広島市輪厚中央五丁目

TEL〇一一三三七七三二八八

FAX〇一一三三七七四一九八

ホームページが新しくなりました

https://www.sapporodaikyo.com/

眞中神社

宮司 若森 正仁

名誉宮司 若森 正道

〒五〇二一〇八五七
岐阜市正木二二六
TEL〇五八二二二九一三三八〇
FAX〇五八二二二九一三一九四

扇森稻荷神社 宮司

長 元 祥 泰

家内安全・商売繁昌・厄除・八方除・交通安全・病氣平癒・結婚式
初宮詣・七五三・子宝成就・安産・子孫繁栄・学業成就・合格祈願
地鎮祭・竣工祭・上棟祭・安全祈願祭・神葬祭・各種祈禱祭〒822-0034 直方市山部448-1
電話・FAX 0949-22-4972

高天原神社

宮司 金丸 夕カ子

〒八八〇一〇八七七
宮崎市脇町八四
TEL〇九八五二二七一五七二
FAX〇九八五二二八一二〇二

神道大教 出雲太神社

宮司 菊地 元宏

禰宜 菊地 康倫

〒九〇一〇五二四
山形県寒河江市高松二八〇
TEL〇三七七八七一〇二八

新年の御慶び申し上げます

神道大教 責任役員

岡本 忠宣

〒六三〇一〇〇〇三
奈良市中登美ケ丘
TEL〇七四二二二四六二二五六二

栄珠稻荷神社

宮司 森田 和子

〒一五四一〇〇〇五
世田谷区三宿一十四一五五七五
TEL〇三三三四一四一五五七五新年の御慶び
申し上げます石大神宮・飯井宮
再興祭祀天興大教会

教会長 小林 宗朝

〒一一四一〇〇二二
北区滝野川五三二二六
TEL〇三三三九一六二二七六

高知中教院

院長 吉良 祝人

副院長 吉良 典世

顧問 吉良 羊子

〒七八〇一〇〇四三
高知市寿町三一六
TEL〇八八二四二二二五五
FAX〇八八二四二二二五五

神道大教

大山 祇神社

宮司 浦田 隆司

〒七一九一〇二二二
岡山県高梁市川面町一九五八
TEL〇八六二二六二〇〇五六

三山宮

宮司 宮田 博正

〒九九七二〇二二二
山形県鶴岡市羽黒町手向二二五
TEL〇二三五二二二二六八

新年の御慶び 申し上げます

令和三年元旦



天神大教会

教会長 富田信太郎

〒三五六〇〇二八
ふじみ野市西原一十八
TEL〇四九一六二二八三

日笠山八雲大教会

教会長 網干裕仁

〒六七六〇〇八二
兵庫県高砂市曾根町一七八一
TEL〇七九一四四八一二三三

函館敬神大教会

教会長 工藤隆三

〒〇四〇一〇〇七四
函館市松川町二十二十六
TEL〇一三八一四一一二七三五

尺間嶽中教院

天野衆王

〒八七六〇一〇二
大分県佐伯市弥生尺間九四六一
TEL〇九七二一四六一四二一

真柱本城宣教所

高崎正枝

〒八〇七〇八〇七
北九州市八幡西区本城学研台
一九一五

神道大教 滋賀米原小教会

水心宮

吉田善實

〒五二一〇〇一四
滋賀県米原市米原七〇四
連絡先
TEL〇六〇六九一〇一八六五一
自然舎内

新年のお慶び 申し上げます

大会議議員

直属 松野昭男

直属 新海研次

〒二三七〇〇七二
神奈川県横須賀市長浦町二一六六

新年のお慶び申し上げます

香取神社
駒形神社

宮司 齊藤均
(大会議議員)

〒二七二〇〇〇一
千葉県松戸市幸田二一八三
TEL〇四七三三四一一三九四

普明神社 苗場明道会

松井苗子

松井興太郎

御嶽永野中教会

教会長 永澤忠彦

副教会長 永澤正義

〒三三八〇二二二
鹿沼市下永野八二
TEL〇二八九一八四一〇三二〇

謹賀新年

井上象英

(神道大教 大会議議員)

出雲大神像観中教会

佐藤正美
佐藤悦彦
松井貞己
柴山清

〒三二一〇一三三
宇都宮市新宮町四一九
TEL〇二八六五三〇四六一

神道大教

大神祖神社

神道大教 韃靼神社

宮司 小林正昭

〒二七三〇一三
千葉県鎌ケ谷市道野辺中央
一〇二一
TEL〇四七(四四三)〇〇六六
FAX〇四七(四四四)九四〇三

深田神社

宮司 深田佳聖

〒三四九〇一四一
埼玉県蓮田市西新宿二一九八
TEL〇四八七六九一五五三

神道大教 あかつき仙台分教会

代表役員

堀川秀夫

鎌田光彦

令和三年元旦

千五〇一—三九一四
岐阜県関市鋳物師屋三—十三
TEL〇五七五—二—三四八五
FAX〇五七五—二—三四六三

直屬
寺田勢鶴子

千四七四—〇〇六一
大府市共和町五丁目六三
TEL〇五六二—四六一〇九二一
千四七四—〇〇五六
大府市明成町一丁目一二
TEL〇五六二—四六一六三三五

大
念
寺
剛

直屬
飯田容子

千四五三・〇〇一一
愛知県名古屋市中村区
松原町一―四三―一

株式会社 美術会館
ギャラリー青 羅(貸画廊)
代表取締役社長

池田美恵子

東京都中央区銀座三—一〇—一九
美術家会館
TEL〇三—三五四—三四八一(代)

☆教師補命

○補
權訓導

良和神社(属)

東京・宮内 康

（令和二年十二月二十一日付）

☆ 辭職者

○大分・直隸

訓導・林みきえ

歸幽報告

次の先生の帰幽の報に接し、生前の御奉仕、御活躍を称え、謹んで哀悼の意を表します。

○令和二年九月七日歸幽

大阪・木山大教会（長）

大教正・村上安徳師

○令和二年十月十四日帰幽

愛知・横須賀講社（長）

訓導・久野金基師

★褒賞授与

長年に亘り、本教隆盛の為に力を尽くされ、大会議議員・総代として、今尚御活躍戴いております金丸タカ子師に、顧問会の承認の上左記の称号を贈ります。

長老

宮崎・高天神社長

大教正・金丸夕力子

(令和三年一月一日付)

○新年互礼会につきまして
新型コロナウイルスにおける
今般の情勢を踏まえ、今
年は中止とさせて戴きます。
月次祭は通常通り斎行致し
ます。

○令和三年一月一日より、ホームページが新しくなりました。又、本局のメールアドレスも変更となりましたので、お知らせ致します。

<https://shintotaikyō.org>
メールアドレス

info@shintotaikyo.org

授与所新築工事大進む

授与所新築工事の地鎮祭を
九月一日に斎行し、九月七
日より着工致しました。
基礎工事も終わり、現在木
工事が進んでいます。

四月の春季例大祭までの完成を目指し、棟梁や大工達が早朝から夕暮れまで、釘打の音も軽やかに作業に精を出しています。

有栖川宮・
高松宮展墓

第八代品田聖平管長以来、毎年秋季例大祭齋行の御報告として、有栖川宮様・高松宮様の展墓を、神道大教独自の行事として行っています。

今年は、コロナ禍の影響で、



有栖川宮様 墓所



高松宮様 墓所

宮内庁の豊島岡墓所での行事は総て中止となっております。

毎年展墓のお取り計らいを下さっております、高松宮妃癌研究基金参与の佐藤進様に御相談致しました所、今般の状況下にありますながらも、特別に展墓をさせて戴く事となりました。

当日、豊島岡墓所の参集所に一同参集し、有栖川宮幟仁親王御墓所並びに高松宮宣仁親王・同妃殿下御墓所に献花・供物をさせて戴きました。

参拝者が一人づつ墓前に御拝礼させて戴き、感謝の誠を捧げました。佐藤進様には、毎年格別の御配慮を戴き感謝申し上げます。

展墓されました方、写真
左から佐藤進様・扶桑教
管長宍野史生様・神道大
教菊池重敏管長・神習教
山本英樹様・扶桑教坂隼
治様・本局大熊満

管長の動向
(対外行事・事務局)

十月二十二日 責任役員会

二十三日 北海道直屬教師高橋裕司師御分靈授与

十一月一日 月首祭齋行

十三日 大教院雅樂寮開催

十五日 中甸祭齋行

十七日 四本木稻荷神社代表役員就任奉告祭齋行（四本木稻荷神社）

十九日 麻生副総理秘書と管長・総監会見

(衆議院議員会館麻生事務所)

二十日 本局會議、授与所建築業者と打合せ會議

二十一日 月次祭齋行

二十五日 東京都教派神道連合会理事会・懇親会出席（学士会館）

二十六日 東京都宗教連盟理事会出席（大熊局員）

十二月一日 月首祭齋行

八日 大教院雅樂寮開催

十一日 教派神道連合会理事会出席（仏教伝道協会）

十五日 中旬祭齋行

十七日 株式会社金剛組社長就任挨拶面談

十九日 授与所新築工事上棟式齋行

二十一日 月次祭・年越大祓齋行

三十一日 除夜祭齋行



菊池管長の教場訪問

「神道大教」

岩倉金剛院小教会」

山形県上市市宮脇二七八に鎮座する宗教法人岩倉金剛院小教会に菊池管長と長元総監が教場訪問をしました。

岩倉金剛院小教会沿革

岩倉金剛院小教会は、現在の八幡悟生教会長で六十代に亘り、齋主を受け継がれている長い歴史を有する教会です。

江戸時代末期の火災により、書類が焼失した為、第四十二代甚長氏以前の詳細は不明です。



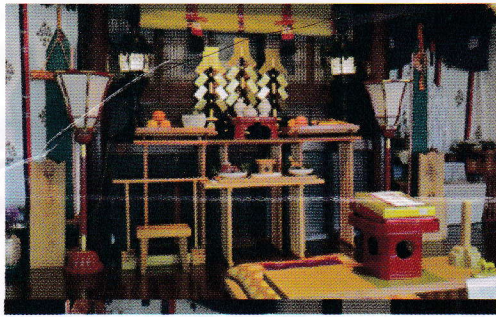
御神殿と御子息の恵生君

元禄元年（一六八八）入峯（修行）『床帳』に「十日町金剛院」の記載を見る事が出来ます。

第五十三代宥豊氏の時代、火事の為文政二年（一八一九）金剛院を再建されて、現在に至っています。

第五十五代宥強氏の時代、明治政府の「神仏判然の令」の為、天台宗の寺院から神道へ変更しました。

第五十九代秀人志師が二十六歳で小教会継承資格の「中講義」を修得し、先代が六十四歳で亡くなった為、三十七歳で齋主（教会長）に就任致しました。以後三十年間齋主を務め、

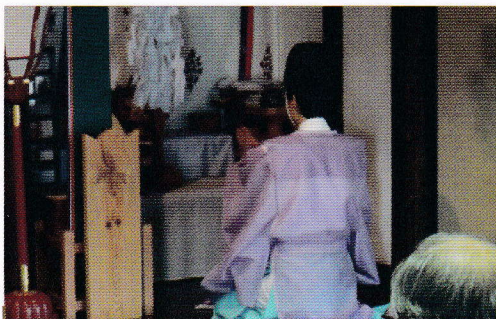


御 神 殿

御子息に齋主職を譲られ、現在の八幡悟生教会長が、第六十代目齋主を継承されています。

八幡悟生教会長は、國學院大學を卒業後、東京都世田谷区の松陰神社に六年間奉職され、その後、岩倉金剛院小教会の禰宜に就任されました。

年より齋主職を受け継がれ、地域に根ざした教会として御活躍されております。神道大教の青年教師として囑目されており、神道大教



祓詞を奏上する教会長



左から長元総監、菊池管長、八幡悟生教会長



修 祓 大 麻 行 事

発展の為、今後の御活躍を御期待申し上げる先生です。先代教会長の八幡秀人志氏は、地元の岩倉山正八幡宮の宮司として、御活躍されています。



岩倉山正八幡宮御社殿